

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	時事問題研究				授業形態		講義		
科目コード	750016	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	外前田 孝							ICT活 用	○
授業概要	宮崎県の地方紙、宮崎日日新聞社での30年間の記者経験を活かし、授業を展開したいと思っています。 世界では戦争や紛争が後を絶たず、終結する気配すら見えません。温暖化に伴う気候変動は洪水や山火事、渇水、氷河の崩落などを もたらし、世界各地で大きな被害が出ています。メディア環境も大きく変化しました。新聞やテレビ、出版などは旧メディアと呼ば れ、生成AIやSNSの台頭が著しい状況です。 この講義では、連日報じられるニュースの中から、いくつかの今日的テーマを選び、ニュースの本質をとらえる訓練をしたいと思 います。それを通して、私たちがどんな時代に生きているかを知るとともに、これから実社会で生きていくための問題意識やもの の見方を養い、民主的な精神を培うことを目指します。 授業を受ければ、就職試験に役立つ一般教養と文章力も身につけられることでしょう。								
関連する科目	社会学、経済学、国際関係論、メディア論、法学、日本国憲法、倫理学、環境問題入門								
授業の進め方 と方法	・講義用のレジュメを作成し、コピー資料を用意します。 ・毎回、パワーポイントを利用し、分かり易い授業を心掛けます。								
授業計画 【第1回】	自己紹介＋概論 時事問題とは何かを説明し、新聞の現状と歴史について見ていきます。その上で「現象と本質」について話します。								
授業計画 【第2回】	「メディアリテラシー」④ SNSなどを通じて日々伝えられるニュースや情報には事実ばかりか嘘も混じっています。それを鵜呑みにしたら判断を間違え大変な事 態を招きかねません。 そこでメディアリテラシーが大事になってきます。SNSを動かすテクノロジーに触れた後、メディアリテラシーの身につけ方を一緒に 考えます。								
授業計画 【第3回】	「メディアリテラシー」⑤ 現在は「ポスト真実」の時代と言われています。同時にそれは陰謀論に陥りやすい時代をも意味します。 フェイクニュースの過去の事例をひもときながら、ファクトチェックの大切さを考えたいと思います。								
授業計画 【第4回】	「高市早苗政権を考える」 2026年2月の解散総選挙で単独で316議席(3分の2以上)を獲得して圧勝した高市自民党。今も高い内閣支持率を維持していますが、こ の政権の特徴が見えてきました。国会軽視による政策のゴリ押しもそうです。この政権の是非を共に考えてみたいと思います。								
授業計画 【第5回】	「戦争と憲法～ウクライナ、イラン戦争を手掛かりに」 2022年2月のロシアによるウクライナ侵襲から4年、2026年1月の米国とイスラエルによるイラン攻撃から約9カ月。この2つの戦争は 止む気配がありません。 戦争とは何か。今の戦争の特徴は？何が戦争を引き起こすのか。戦争を回避する道はあるのか。人類の歴史は戦争の歴史と言えな くもありませんが、戦争は悲しみをつくり、恨みの連鎖を生みます。平和に勝るものはありません。平和憲法を持つ日本は戦後81年 にわたり戦争をしていません。「戦争と平和」について議論できたらと思います。								
授業計画 【第6回】	「教養が危ない、大学が危ない」 1991年の「大学設置基準の大綱化」で教養教育が実質的に解体されました。さらには2014年の安倍晋三首相の「(高等教育は)学術を 深めるのではなく、もっと社会のニーズを見据えた、もっと実践的職業教育を行っていききたい」との発言などを受けて、翌15年3月、文 科省は「人文社会科学系コースを全廃する」方針を正式決定しました。 そして2020年10月には菅義偉首相が日本学術会議が推薦した候補6人の任命を拒否する問題が起きました。学問の府である大学は本来、 「真理の探究」をする場のはずです。それを職業訓練校化する国の方針はどう考えたらいいのか、一緒に考えましょう。								
授業計画 【第7回】	「外国人との共生・共存」 日本でも在留外国人が右肩上がりが増えていきます。大方は就労のための在留です。そうした動きを受けて、参政党などは過度の移民 受け入れや外国資本の流入に規制をかけると意気込んでいます。外国人によって治安が悪化しているとか、社会保障がただ乗りされて いるなどと声高に語られてもいますが、本当なのでしょうか。外国人と共生することはできるのでしょうか。一緒に考えましょう。								
授業計画 【第8回】	「地方の危機」④～現状 地方は疲弊していると言われて久しいです。地方の変遷をたどりながら、国の政策を検証します。								
授業計画 【第9回】	「地方の危機⑤」～打開策 地方の疲弊をどうしたら解消できるでしょうか。「内発的發展論」や「田園回帰1%戦略」などに触れながら、町づくりの実践事例を みていきたいと思います。								
授業計画 【第10回】	「核のごみと原発問題」 東日本大震災に伴う福島第一原発の重大事故。メルトダウンした核燃料は地中に溶け落ち、取り出すめども立っていません。さらにそ の核燃料を冷却した汚染水の海洋放出も始まっています。高市政権は原発を再び中核に据えるエネルギー戦略を打ち出しました。一方 で究極のエネルギーといわれる「核融合発電」の実用化に向けた動きも活発化していますが、課題は多いようです。人類は原発と共生 できるのでしょうか。一緒に考えましょう。								

授業計画 【第11回】	「気候変動」 米国のトランプ大統領は「気候変動は起きていない。史上最大の詐欺」とうそぶいています。そのため米国はトランプ大統領就任後、地球温暖化対策のパリ協定から離脱、2027年に気候変動枠組み条約国から脱退するとされています。もはや温暖化に伴う気候変動は常識で、待ったなしの状況です。地球の平均気温が1・5度上がると豪雨や洪水に高頻度で見舞われ、2度上昇すると暴風雨や山火事が増加し、食料生産にも影響すると言われます。どうしたら温暖化を止められるのでしょうか。一緒に考えましょう。
授業計画 【第12回】	「文章の書き方」 いい文章とはどんな文章でしょうか。優れた新聞コラムや社説などを実際に読みながら学びます。
授業計画 【第13回】	「社説(小論文)を書こう」④ この講義では、一つの時事的テーマを決めて小論文を書いてもらいます。まずは図書館に行き、関連書籍を借りることからスタートします。
授業計画 【第14回】	「社説を書こう」⑤ 小論文は今やA Iを使えば簡単に書いてしまいます。それでは、成績の甲乙はつけられません。そこで文中に自分の体験談を必ず織り込み、自分なりの視点や発見のある文章を書いてもらいます。
授業計画 【第15回】	「社説(小論文)」発表 出来上がった小論文を前に出て読み上げてもらい、感想を述べ合います。最後にはそれを提出してもらいます。
授業の到達目標	・新聞などのニュースを読んだり、テレビでニュースを見る習慣を身につけてもらいます。それによって時事問題に関心を持ち、ニュースを見る目やメディアリテラシーを養ってもらいます。 ・実際に小論文を書く中で、正確で相手に伝わる文章とは何かを習得してもらいます。 ・メディアが国民の「知る権利」に応えることで民主主義社会の土台を形成していることを感得してもらいます。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	新聞やテレビ、ネットなどを通して日々のニュースをチェックして時事問題に慣れ親しんでください。できれば、講義のテーマについて事前に調べ学習をしてもらえると、理解が早いと思います。
授業時間外学習【復習】	講義で配布したレジュメ、資料を読み返すとともに、講義で関心を持ったテーマに関連した書籍を読んでもらいたいです。
課題に対する フィードバック	書いてもらう小論文については完成前にここをこう書いてみたらなどとアドバイスし、発表後には感想を述べようと思います。
評価方法・基準	授業中に作成した小論文(社説)のみで点数をつけます。
テキスト	日々の新聞。ネットニュース。
参考書	『メディアの罠』(青木理ほか、産学社)、『深代惇郎の天声人語』(朝日新聞社)、『SNS時代のメディアリテラシー』(山脇岳志、筑摩書房)、『メディアリテラシーを学ぶ』(坂本旬、大月書店)、『振り返れば未来 山下惣一聞き書き』(佐藤弘、不知火書房)、『国民の違和感は9割正しい』(堤未果、PHP新書)、『文章の書き方』(辰濃和男、岩波新書)、『社会学入門』(見田宗介、岩波新書)ほか
備考	